

構成文化財一覧表（丸亀市本島・広島）

文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ
しわくほんじまたかんぼうやま 塩飽本島高無坊山 いしきりちとう ぼあと 石切丁場跡	市史跡	大坂城築城時に細川家の丁場として稼働していた場所である。細川家文書より三期にわたる普請のうち、二期と三期にこの場所の石材を搬出したことがわかっている。塩飽水軍のお膝元であるこの地から石材が出されたことは、地域資料からもうかがえる。
しわくきんぼんしよ 塩飽勤番所	国史跡	物流の大動脈である瀬戸内海で活躍した塩飽水軍の政治の中心地が塩飽勤番所であり、塩飽全島を統率した。信長・秀吉・家康など時の天下人からも高く信頼された塩飽衆は、「人名」と称し自治を認められた。その朱印状が今も残されている。瀬戸内海の石材運搬のカギを握った海の民の偉業と歴史を伝える貴重な場所。
としより 年寄の墓	国史跡	塩飽水軍を統治した塩飽衆の代表者である年寄の墓。高さ3mを超える花崗岩の碑が代々建立されており、年寄の権力の強さを彷彿させる。
かさしま 笠島集落	国重伝建	塩飽水軍として活躍した当時の繁栄を象徴する港町。本島の中心港であったこの場所は花崗岩の石畳などと共に町屋建築が立ち並び、塩飽大工の伝統的な技術を今に伝えている。
石の里資料館 収蔵資料	未指定 (有形民俗)	旧広島西小学校の一部を利用して、青木石の歴史や石切の道具、島の生活道具などを展示している。塩飽諸島の一つとして、石材搬出を行い続けた石の島の姿を知ることができる。
はぶしいわ 波節岩灯標	未指定 (建造物)	広島の南約1kmの沖に浮かぶ直径50mの岩礁（波節岩）の上に設置された灯標（灯台）である。高さ13mの灯台は花崗岩の切石を積み上げて作られている。
石蔵 (旧波節岩灯標脂油庫)	未指定 (建造物)	花崗岩の外壁を持つ石蔵である。灯標用油の貯蔵庫として活用されていた。石材の仕上げ方の違いによる壁面のコントラストが美しい。灯標と同じく明治28年に竣工されたもの。
おうとうざん おうとう 王頭山（王頭砂漠）	未指定 (名勝)	島の半分を占める王頭山。山頂近くには、「王頭砂漠」と呼ばれる空中庭園のような場所もある。花崗岩が風化してできた真砂土が砂漠のように広がり、コロコロと花崗岩の自然石が点在している。その昔、立派な寺社が建っていたという坊主屋敷の伝説が残っている。
おのえ 尾上邸	未指定 (建造物)	高い石垣をめぐらせた豪壮な建物は、江戸時代に千石船で繁栄した面影をよく残しており、“塩飽大工”と呼ばれた人たちの技術が随所に発揮されていて目を見張るばかりの民家。島で採掘される青木石を高く積み上げた石垣とおよそ200年前に建てられた総ケヤキ造りの家屋が当時をしのぼせる。
こがらす 木鳥神社鳥居	市有形 (建造物)	本島町泊にある大国主神・天押立神・少彦名神を祀る木鳥神社の鳥居。様式は明神鳥居で、笠木は両端を蕨手状に丸く盛り上げた特徴のある造りである。寛永4年（1627）の建立で、大坂城築城に関わったと伝説のある薩摩の石工紀加兵衛や地元の九郎兵衛らによって製作された。

<p>ちとせざ 千歳座</p>	<p>市有形 (建造物)</p>	<p>塩飽水軍の末裔たちは近世以降, 廻船や大工の分野で高い技術力を発揮し, 塩飽を離れ各地域で活躍した。本島の泊地区にある千歳座は塩飽大工により文久 2 年 (1862) に建設された芝居小屋で, 基壇には本島の花崗岩が使用されている。塩飽の繁栄や風俗を物語る貴重な建物として, 今も島民らが活用している。</p>
<p>しんぎょうざん 心経山</p>	<p>未指定 (名勝地)</p>	<p>瀬戸内の眺望が良く, 巨岩や怪石が露呈する弘法大師ゆかりの霊場。山頂の巨石には神仏が祀られる。心経山の丁場から切り出される花崗岩は「青木石」として知られている。</p>